

ジェンダーの視点から考察する高津高校の謳う自由

家庭科班：西田 萌香 石橋 鮎佳 奥井 匠 長谷川 智春 森内 友菜

要約

家庭科の授業などから、ジェンダー面において生きづらさを感じている人が、同時代にも多くいることを学んだ。このことから、本研究では、高津高校でも同様の生きづらさを感じる事例があるのなら、改善することで誰もが生きやすい学校へと近づくのではないかと考えた。

Abstract

We learned from home economics classes that there are many people in the same generation who find it difficult to live in terms of gender.

From this, if there are cases where kozu High School feels the same difficulty in living, I thought that improving it would bring us closer to a school where everyone can live comfortably.

1. 序論

私たちが、この研究テーマを選んだ理由は、家庭科の授業などを通して、ジェンダー面において、生きづらさを感じている人が、同世代にも多くいることを学んだり、高校生になり、人間関係が広がることで、ジェンダーに関わる問題をより身近に感じるようになったからだ。

これらのことから、高津高校にも、ジェンダーに関わる様々な問題があるのではないのかと思い、高津高校を誰もが過ごしやすい学校にするためにはどうしたら良いのか研究した。

2. 研究手法

高津高校の現状を知るために、高津高校の1，2年生と教員の方々を対象にジェンダー観に関するアンケートを行った。生徒用アンケートは完全匿名の紙媒体で行い、筆跡などへの配慮から記述回答の質問のみ Google フォームからの解答も可能にした。教員用アンケートも完全匿名で行い、こちらは Google フォームからの回答のみで行った。また、欠席した生徒や、ご協力をお願いできなかった教員の方々の回答は含まれていないため、結果はあくまで参考となる。

3. 結果

①高校生活の中で、ジェンダー面で生きづらさなどを感じたことはあるか。(対生徒)

自分自身の性自認に関して生きづらさを感じたことがある：6人

性自認に関して違和感はないが、生きづらさを感じたことがある：70人

生きづらさを感じたことはない：594人

無回答：15人

合計：685人

②自分はジェンダー面における様々な問題に対して理解がある人だと思うか。(対生徒、教員)

思う：生徒133人、教員17人

やや思う：生徒345人、教員5人

あまり思わない：83人、教員3人

思わない：10人、教員0人

わからない：生徒115人、教員1人

合計：生徒686人、教員26人

③高津高校はジェンダー面における様々な問題に対して理解がある高校だと思うか。(対生徒、教員)

思う：生徒116人、教員6人

やや思う：生徒302人、教員13人

あまり思わない：生徒111人、教員5人

思わない：生徒34人、教員1人

わからない：生徒120人、教員1人

合計：生徒683人、教員26人

④社会人になって、講習会や勉強会など、ジェンダーに関して学ぶ機会はあったか。(対教員)

ある：26人

ない：0人

合計：26人

⑤高津高校内でジェンダー面から考えて理解がないと感じる場面があるか。(対生徒、教員、記述式)

対生徒：性別を記入する欄に男女しかない。

記念祭のユニフォームが男女で分かれている。

純粋に異性の服装がしたいのに認められない。

委員会などの募集規定。

対教員：運動部マネージャー

記念祭における規定

校内のポスターのキャッチコピー、デザイン

生徒招集の際に男子〇〇人などの条件がある。

(代表意見を抽出)

その他、高津高校におけるジェンダー理解に関して、感じる事、改善してほしいことがあれば別途記述してもらった。

4. 考察

結果をもとに、高津高校の現状をまとめると、

- ・高津高校はジェンダーに関する問題についての理解を深める取り組みは行っている。
- ・全員とは言えないものの、ジェンダー問題について理解を示している人が多い。

- ・上記のような現状であるものの、私たちの周囲には少なからず生きづらさを感じている人が存在している。
- ・生徒、教員共に記念祭におけるユニフォームへの違和感を感じている人が多い。
ことが挙げられる。

また、令和3年度の高津高校記念祭規定より、実際に男装、女装を制限したり、男女を区別する規定は存在しない。

これらを踏まえて、高津高校をより過ごしやすい場所にするために、最も意見が多く寄せられた記念祭のユニフォームについて考察した。

ユニフォームに関する意見をまとめると、生徒からは、ユニフォームを男女で分けることや、男装可で女装不可であることに対する違和感を訴える意見が多かった。教員は、規定として男女を区別するものは存在しないという意見が多くある一方で、規定に女装不可とあることを書いている人もいた。このことから、全体的には、生徒はユニフォームは男女で区別されていると誤った認識をしている人が多く、教員はユニフォームが男女で区別はされていないと規定にあった認識をしているものの、誤った認識をしている人もおり、認識に差があることがわかる。

5. 結論

誰もが自分の個性を発揮でき、様々な個性が交わる中ではじめて高津高校の謳う自由は成り立つと考えられる。また、校則や規定が少ないからこそ本当の社会に出る前に社会と大差ない環境でジェンダーに対する意識を身につけることができる。現代社会において、様々な平等が叫ばれている中で高津高校がまず自由に生まれついたものにしばられない社会を創り高津高校の自由をより意義のあるものにすることが私たちの役目であると考えます。